市長と語ろう！ほっとおしゃべり会@上庄公民館　結果概要

日　時　令和８年１０月２６日（月）午後７時～８時１５分
場　所　上庄公民館
参加者　市民　６名

結果概要
１　あいさつ（市長）

２　趣旨説明（竹田室長）

３　災害時の避難行動と新たな気象情報について説明（市長）
意見
①災害や避難所などについて
参加者：避難所に指定されている施設について、健常者は避難できても、要介護者や車いすを利用する人は避難が難しい場合がある。実際に防災訓練で車いすを利用する人に参加してもらい、２階への移動を試したところ、階段を上ることが難しく、複数人で介助しなければならないことが分かった。災害が発生した際、誰が要介護者を避難させるのかという問題もある。特に大雪のときは、除雪が進んでいなければ車も通れず、避難所まで移動すること自体が困難になる。
防災士の資格を取り、集落の住民に防災指導している。他の住民にも防災士の資格を取得するようお願いしている。最後は自分の身は自分で守らなければいけないため。
参加者：介護認定者などは要介護者の受け入れ可能な施設にお願いしたほうがよいと思われる。
参加者：災害発生時、区長が不在のときもある。
参加者：普段から集落の人同士でコミュニケーションを取っておく必要がある。防災意識を高くしていないといけない。
参加者：訓練や練習は重ねてやっておいた方がよい。また、普段から住民同士連絡を取り合うことが大切。
参加者：私の集落はそんな意識はなかった。
参加者：夜間でも避難しやすいよう、防犯灯も電柱１本おきに設置している。
参加者：水害はある程度予想がつくが、地震は厳しい。
参加者：災害が長期化すると、食事とトイレの問題が発生する。仮設トイレがどれだけ必要か集落内で話したことがある。

４　意見交換（フリートーク）
①まちなかと郊外の差

参加者：七間通りによく出かける。道路がきれいになり、歩道と車道が色分けされて、車も歩行者を避けて走行するようになった。七間通りは七間朝市があり、歴史があるから大切にされているのかと思う。ただ、いまひとつ盛り上がりが足らないように感じる。もう少し工夫が必要ではと思う。

除雪についても、まちなかの方が優遇されているのではないかと思う。家の前の道は朝６時くらいにしか来ない。早いところは早朝２時とかに出ていると聞く。

市長：中心市街地には市民だけでなく市外からも多くの人が訪れるため、地域ならではの課題もあるが、中心市街地であるという自負もある。市街地以外の地域でも、同じように寂しさを感じることがある。それぞれの地域に関心を持ち、行き来することが大切である。七間通りに足を運ぶ人が増えることも、地域の方々を励ますことにつながる。

七間通りでは、若い世代の店主たちも危機感を持ち、自分たちで何かをしなければならないと考えている。道路の整備をきっかけに、地域への関心が高まっている。三大朝市物産まつりやハロウィンの催し、そば祭りに合わせた七間楽市など、さまざまな取り組みが予定されている。こうした活動に関わる人が増えることで、さらなる展開につながることを期待している。

除雪については、６時ではちょっと遅いかもしれない。昨今、雨は土砂降り、雪はドカ雪と極端であるため、これまで２時に出動していたが、現在は早いときは１時から出ているところもあり、朝にはすでに積もってしまうところもあり難しい。その声があったことは。担当課に伝える。除雪は、県が管理する幹線道路、集落間を結ぶ道路、生活道路などの順に対応することになっている。

②産業振興について

参加者：勝山は恐竜で儲けている。大野も工場などを誘致することが難しいのであれば、例えば、インテリジェントとアートのまちなど、価値が測れないものは投資率が高いのではないか。

市長：大野市では、高速交通ネットワークの整備が進む中、市外から訪れる人に大野市を選んでもらい、市内を回遊してもらえるよう、天空の城越前大野城、九頭竜の恐竜化石、北陸最大級の道の駅越前おおの荒島の郷、日本一美しい星空などの魅力を発信している。

③市職員の接遇、職員研修について

参加者：市役所にさまざまな相談に行く機会があるが、職員によって対応に差があると感じることがある。市職員の教育や研修は、どのように行われているのか。

市長：市職員には、一般的な社会人として必要なことに加え、公的な立場にある職員として、公平性を意識することや、法律・条例を理解すること、周囲から見られていることを自覚することなどが求められる。採用１年目には、市職員として働く上での基本的な事項について研修を行っている。経験年数や職階に応じて、それ

ぞれに必要な知識や能力を身に付けるための研修も実施している。
また、就職しても短い期間で辞めてしまう職員もいるので、若い方の働き方改革も行っている。

④集落の役員の負担軽減について

参加者：地域では、高齢化や働き手の減少により、役員などの担い手が少なくなっている。地域によって状況は異なるが、役員を引き受ける人が少なくなり、一人当たりの負担が大きくなっていると感じる。市や関係団体から依頼される役割も多く、引き受け手が見つからないことがある。地域の実情を踏まえ、役割や仕事の進め方を見直し、負担を軽減できるとよい。

市長：地域の役員の負担が大きいという声は、以前から聞いている。市から地区ごとに委員を選出してもらっていた役割についても、各団体と協議し、見直しを進めてきた。環境監視員やリサイクル推進員、保健関係、社会教育関係の推進員などは、市全域で対応できる体制に改めるなどの整理を行っている。
一方、民生委員・児童委員など、法律や制度に基づく役割や、地区社会福祉協議会に関係する役割もあり、単純に廃止できないものもある。
そのため、地域の中で助け合い、支え合いながら、役割を分担できる新しい地域運営組織をつくることも必要ではないかと考えている。昨年１０月には、地域団体のあり方について検討した方針をまとめ、今年３月から４月にかけて、区長や地区の関係者に相談を行った。現在は、地区ごとに今後の進め方を検討している段階である。

参加者：昔は、６０歳で定年。我々の世代で６５歳が一応定年となるが、将来は定年延長や更新などで、定年がなくなるのではないか。その状態で、集落の役を頼んでも引き受けてくれない。なので、我々で減らせられる役は減らしている。

⑤人口減少対策と若い世代の意見の反映について

参加者：人口減少対策として、経済対策が重要だと考えている。お金が動くところには人が集まるため、地域内で経済活動を活発にすることが、人口減少対策にもつながるのではないか。
また、若い人が地域に定住しない理由については、若い人自身に意見を聞き、改善策を考えてもらうことが大切である。子どもや若者には、それぞれの立場で感じている課題があるため、当事者の声を聞くことが解決につながると思う。

市長：若い世代の声を聞くことは大切である。市の取り組みを考える際にも、当事者の意見を取り入れる必要がある。
一方で、若い人たちは、自分のことは自分で解決できるため、地域の話し合いに参加する機会が少ない場合もある。自分たちが地域の課題の当事者であると感じてもらうことが重要である。
大野地区や乾側地区、和泉地区では、中学生以上を対象にアンケートを実施し、地

域で何をしたいか、何を大切にしたいかなどの意見を集めている。こうした意見を今後の地域づくりに生かしていきたい。
また、農業関係の計画を見直す際にも、これまで話を聞く機会が少なかった若い世代の農業関係者と意見交換を行った。若い人たちの考えを聞く機会を設けることには、大きな意義があると感じている。

⑥勤務時間中の喫煙について

参加者：民間企業では、勤務時間中の喫煙を認めず、昼休みなどの休憩時間に限っているところが多い。市役所では勤務時間中にも喫煙している職員を見掛けることがある。仕事中は禁煙にすることで、仕事の効率も上がるのではないか。

市長：社会の状況が変化する中で、職員の勤務態度や行動についても、気をつけていかなければならない。

⑦参加者への配慮

参加者：本日参加したが、耳が聞こえにくいため、何を聞かれているか分からず、自分の思いを伝えることが難しい。言いたいことを伝えられる状況をつくってもらえるとありがたい。

市長：おしゃべり会が終わってから、二人で話をさせていただきたい。

５　閉会